仁心看護専門学校　2024年度　学校関係者評価会議報告書

日時：令和7年5月30日（金）14時～
場所：仁心看護専門学校　会議室
教職員及び事務

吉牟田　直孝	仁心看護専門学校　校長
冨吉　良子	仁心看護専門学校　副校長
穂山　みどり	仁心看護専門学校　教務主任
上原　啓介	仁心看護専門学校　事務長

出席委員

松下　京子	福山病院　総看護師長
三島　真実	松下病院　総看護師長
山根　朱美	医療福祉センターオレンジ学園　看護部長
徳永　美代子	たちばな医療専門学校　副校長
松下　兼綱	たちばな医療専門学校　事務長
庄田　成伸	南九州病院　看護師

欠席委員

澤田　直美	後援会会長

学校関係者委員による評価及び意見

・2024年度の自己評価・自己点検結果に対して、概ね良い評価であるとの意見を得た。
・入学者減少の傾向と今後の学校継続について意見があった。

看護の現場では人材不足が深刻であり、地域における看護学校の存在は極めて重要。今後の学校存続は強く望まれる。

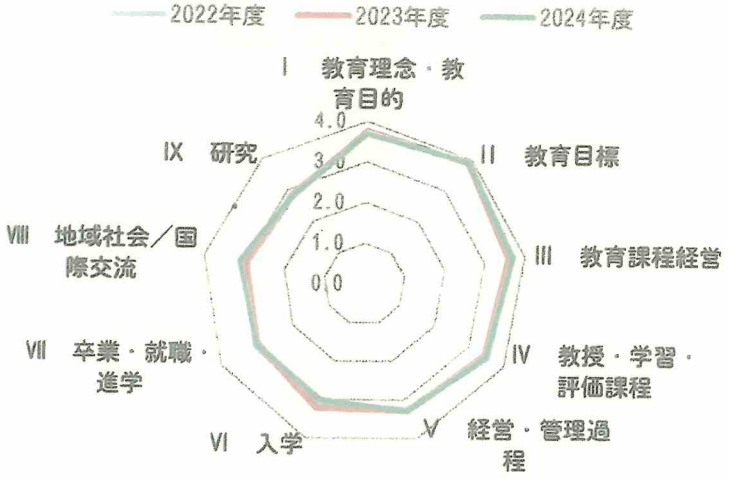
分かりやすく発信することが課題。また、オープンキャンパスの回数内容やSNSの活用による情報発信に力を入れるべき。また、法人としても連携して病院の職員確保と学生確保に力をいれていきましょう。

名称変更もしていくので、地域に根差した学校へ。地域への情報発信やボランティア等に通じて周知を深めてしってほしい。

2024年度　自己評価・自己点検結果

2025年5月
仁心看護専門学校

自己評価・自己点検結果



評価基準	
4：当てはまる	2：どちらかというと当てはまらない
3：どちらかというと当てはまる	1：当てはまらない

総　括

自己点検・自己評価の結果、３年間の大項目を比較すると全ての項目でほぼ同様で大きな変化はない。

大項目のⅠ～Ⅳについても、新カリキュラムとなり３年が経過しているが、近年と同様で低下もなく教育理念に始まり教授・学習・評価過程までの一連の教育課程運営において整合性があると評価できる。Ⅳの教授・学習・評価過程において、目標達成の評価とフィードバックが他の項目に比べてやや低い。現在、日々講義の中で評価しフィードバックしている科目とそうでない科目とあり統一されていない。すべての科目で評価を行いフィードバックしていくようにする。

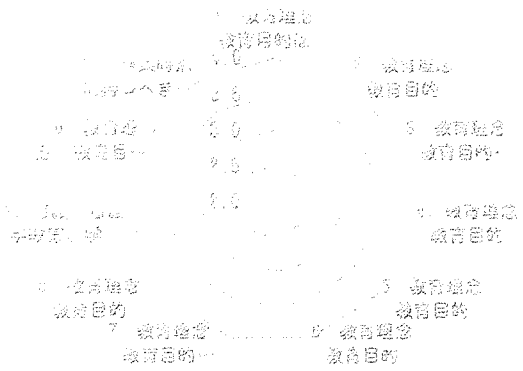
Ⅵの項目では、前年度よりやや低い。入学生が定員を大きく下回っている。前年度のオープンキャンパスの応募・参加や近隣の高等学校からの入学者も減少している。今年度は、引き続き募集要項の広範囲な配布や配信、高校訪問、オープンキャンパスの回数の増加等で本校の魅力の周知を図っていく。

Ⅷ. の地域社会への働きかけについても、新カリキュラムに「地域を知る」「ボランティア論」「ボランティア実践」の科目を設定したことや「国際・災害看護」では、災害看護の体験談やJICAへ依頼し国際看護の体験談を聞ける機会を設け、評価が上がっていると考える。今年度は、学校行事として、地域の清掃ボランティアを実施したので次年度は上昇していくと考える。

臨地実習では、発熱や体調不良時には、実習施設と連携を図り対応し全ての施設で実施することができた。卒業時の技術到達度においては、実習ごとに、学生と確認し実習施設と連携を図ることで経験できた項目も増えた。

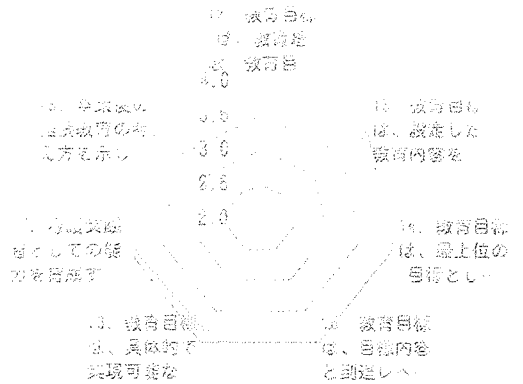
2024年度の、看護師国家試験合格率は86.4%であった。必修問題は、基本的なことが問われ過去の国家試験に出題された内容が多くみられたこともあり必修で８割以上とれた学生が多かった。しかし、一般・状況問題の正答率が低かった。今年度は、国家試験対策を導入し最終目標を達成できるよう、また、社会に貢献できる人材育成を目指し今後もカリキュラム運営に努力していく。

教育理念・教育目的



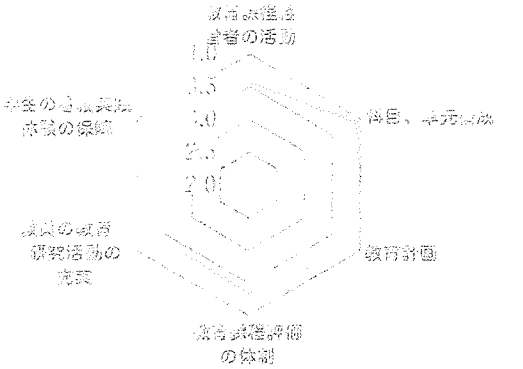
教育理念・教育目的の教育上の特徴と法との整合性は適切であると評価している。理念の「人間愛」「人間尊重」はキーワードとして学生には定着しており、その理念は学校運営の柱と認識できている。しかし、「4．学生の学習指針となっている」や「7．教育環境」「9．教師の教育活動の指針になっている」のポイントが3.5と他に比して評価が低いのは教育理念・目的に学生への具体的教育活動が表せていないことや全員の共通理解が出来ていないためと考える。カリキュラム改正時に教育理念・教育目標の見直しを行ってはいるものの、表現自体はこれまでと同様のため全員で共通理解することが求められる。

II　教育目標



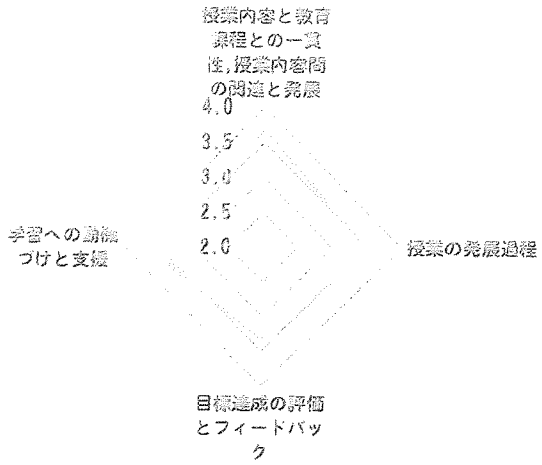
教育目標の評価は平均3.9であり、教育理念・教育目的との一貫性があり目標設定の妥当性は評価できる

III　教育課程経営



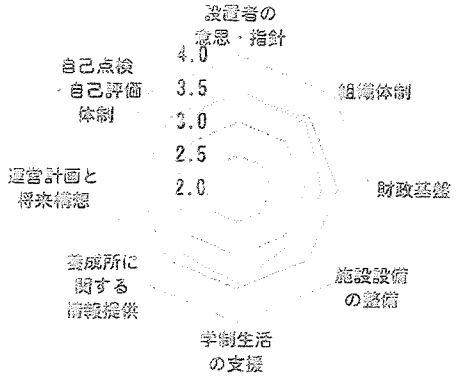
全体的に見ると評価は3.7である。科目・単元構成、教育計画、教育課程評価の体制等については3.7～3.9と評価が高い。教員の教育・研究活動の充実や学生の看護実践体験の保障については3.6と昨年度は、教員養成講習会があり2名不足している状況であったがやや上昇している。今年度は教員の担当科目の配分調整を行っているため、次年度へ期待したい。学生の看護実践体験の保障は3.4と低い。「41．臨地実習施設の養成所の教育理念・教育目標の理解」や「43．臨地実習指導者の役割の明確性」などが3.1と低い。各実習前に実習施設との打ち合わせや要項説明を行っているため、引き続き丁寧な説明と指導者と教員の協働体制を整えていく。また、実習開始時に目的や目標をしっかりと病棟全体へ伝わるようにしていく。

Ⅳ　教授・学習・評価過程



教育理念から教育目的・目標、単元への考え方は評価が高く授業内容についても評価が3.7である。授業間の重複・整合性・発展性についても調整できていると評価している。単位認定の公平性は4.0に近い。しかし、目標達成の評価とフィードバックは3.3と低い。特に「41.評価計画を立案し評価」や「42.評価結果に基づいた授業の改善」「43.多様な評価方法の取り入れ」では、2.9～3.0と評価が低くなっている。今年度は、全科目で授業評価を行い、改善していけるようにしていく。

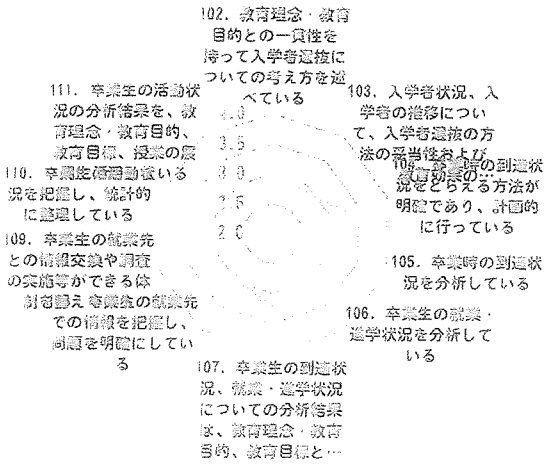
Ⅴ　経営・管理過程



経営・管理過程の中項目の評価は平均3.1～3.4である。施設設備の整備が3.1と最も低い。設置者の意思・指針や組織体制は3.4～3.5を評価している。

自己点検・自己評価は3.4である。評価はほぼ「やや当てはまる」であり、評価したことが明確にフィードバックできていると実感できていない。フィードバックしていく必要がある。

Ⅵ　入学
Ⅶ　卒業・就業・進学

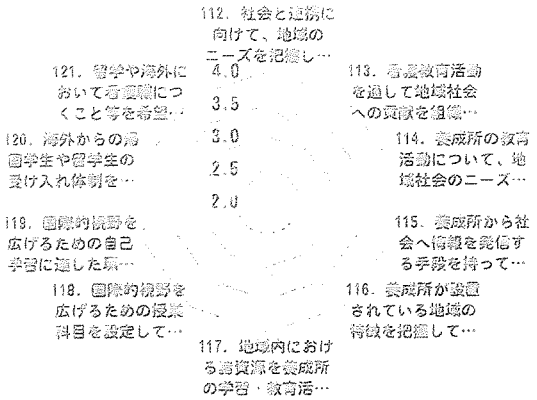


この数年、入学者数は減少している。オープンキャンパスを2日間実施し18名の応募・参加しそのうち11名が入学している。

高校訪問やCM、Instagram、南日本新聞のウィークリック、卒業校へのメッセージなどにより、学校の紹介や魅力の発信を行ってきた。今年度は、Instagramを学生にも発信してもらうようにすることやオープンキャンパスを4回（うち1回は夜間）へ増やして広報をしていく。

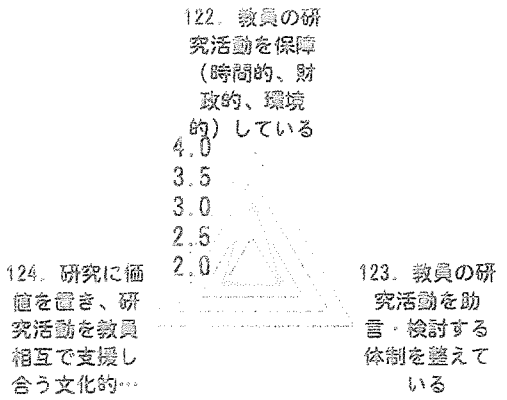
卒業・就業・進学では、卒業生の就業先との連携を図るシステム作りがなかなかできていないことが評価を低くしている。卒業時の技術到達度においては、チェック方法の見直した結果、達成度が上がったため、引き続き施設側と連携を図り、技術の経験が出来るようにしていきたい。

Ⅷ　地域社会／国際交流



地域社会については3.2である。1・2年生ではボランティア活動をピアグループに捉われないようにしたことで参加度が減少した。しかし、3年生では、ボランティア実践の科目により全員が実践を行い活動報告ができている。国際交流については、授業科目の設定は3.6である。JICAによる国際看護の実際や災害看護を経験者などの講義や体験談により貴重な体験ができた。今後も継続していく。帰国学生・留学生の受入れ体制がないために項目によっては2.5と低い。

Ⅸ　研究



評価は2.8と昨年度と同様に低い。日々の業務に追われている状況が関係していると考えられる。研究活動できるような環境を作っていく必要がある。